

シリーズ：「授業と生徒を語る」

## 桐生西・安中総合合同授業研究協議会 was born!

桐生西高等学校・四宮 光

### はじめは、村上先生の教室の衝撃！

9月5日(土)第40回ぐんま学びの会(代表：清水照久 群馬県立安中総合学園高等学校校長)で、安中総合学園高校の村上高根先生の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業DVDを視聴しての学習会での衝撃がそもそもの始まりでした。

<紙面の関係でその一部を再現してみます。>

Where did you come from? Around 1955, Dick's family was on holiday. Every night Dick told his son a bedtime story about a small rabbit. Miffy was born!

『コミュニケーション英語』教科書より

T— はい、それでは、最初今日は後ろの人とペアを組んでください。前後でペアをくんでください。いいですかね、それでは With your partner, do the Janken please. (生徒同士が前後でジャンケン、アラーム音) それでは日本語で何が書いてあったのか。…Ready go.

S— (一方の生徒が日本語で書いたあった内容を発表)

T—Ok. Time is up. Stop please. Exchange your role please. Exchange your role,OK? Are you ready? Ready go.

S— (交代してもう一方の生徒が日本語で書いてあった内容を発表)

T— はい、それではいきます。教科書見ないで。言う人は教科書見ないでいきます。分かんなくなったら、Miffy Bruna 分かる単語だけでも結構です。言ってください。

Ready go.

@課題の難易度が増しても、「分かんなくなったら、Miffy Bruna 分かる単語だけでも結構です。言ってください。」という語りかけが子どもたちを促します

T— はい、それでは Put your desk together please. (机移動) 前回と同じように、テーマを4つ今回設定します。それぞれの班で答える…

4つのテーマ：

受身形・ディック・ブルーナー・ミッフィー・関係代名詞

▼ここから3人でグループ学習

(注；グループを3人にするのは、村上先生がハワイの大学で研修された時の大学の先生の考え方に基づいています)の“あれこれ”こらぼれーしょん

“あれ”

S①— これで何て訳すん？ Dick Bruna has won many awards.

S②— (ノートを見返して) ディック・ブルーナーさんは彼の仕事に対してたくさんの賞をもらっています。

“これ”

S③— 過去形か過去形じゃないか？過去分詞形、過去分詞形、過去分詞形…

S④— 生まれた？生まれ…された？ creat …

S③— created これだこれ ディック・ブルーナーによって作られた

S④— ミッフィーはディック・ブルーナーによって作られた…。日本語でまず何て答えるん？

- S③— ミッフィーは…だってわかんねえーもう。ディック・ブルーナーに…もう一回
- S④— この文はミッフィーはディックの中で
- S③— 有名なキャラクターです。
- S④— 最も有名なキャラクター…。俺が言ったのは…。
- S③— あっわかった。Dick Bruna is …そうするとディック・ブルーナーのことになっちゃう？
- S④— ディック・ブルーナーは有名なキャラクターを作りました。
- S③— それだとディック・ブルーナーのことになっちゃう。ミッフィーについてじゃない。  
ディック・ブルーナーが…
- S④— ディック・ブルーナーが…。日本語だよまず日本語。
- S③— だから、この文が…、これ見てさ…、ディックが作ったもっとも有名なキャラクターに  
すればいいんだよ。is Miffy みたいな。ディックが作ったもっとも有名なキャラクター  
はミッフィーにすればいいんだよ。
- S④— Dick Bruna created あー 受身？
- S③— 受身になんないと思う。Dick
- S④— じゃあ created … created
- S③— creat でいいや
- S④— most famous character is Miffy

@各グループを個別に周り子どもたちを手厚くサポートすること、さながら「ひつじのショーン&ビツァー (牧羊犬)」(注3 ; イギリスのアドマン・アニメーションズ制作のストップモーションアニメーション) 残り5分

T— はい、出来たところは紙を持って行ってなるべく大きく書いて下さい。前回ちょっと小さくて見づらかったので、出来たところは清書はじめてください。(班ごとに紙を配付)

#### ▼チャイム

T— じゃあできた班から見せてください。できた班から終わりです。サム先生に見てもらってからあまり細かい間違いは気にしないで…、Miffy is love. 3つでいいんだよ。すばらしい。

▼昼休みになっても、6班が清書に取り組み続け、完成。

T— good job (拍手) name, your name. good job ご苦労様です。よく出来ました。

@授業時間終了後も粘り強くグループで課題に取り組むことができたのは、《村上先生が子どもたちと寄り添い「あまり細かい間違いは気にしないで…」「すばらしい。」という励ましとねぎらいの支えがあるから》

#### ◎村上先生の教室の衝撃1. 2. 3!

1 子どもたちが安心していられる教室

2 テンポの語りかけと心地よい英語の発音が響き合う教室

3 子どもたちと子どもたち、子どもたちと村上先生、子どもたちと教材・課題がつながっている教室

学びの会の学習会終了後、ぐんま学びの会代表&群馬県立安中総合学園高等学校校長の清水照久校長先生に、桐西で村上先生をお呼びして研修会をしたいとお願いしました。

というのも、桐生西高校では平成25年度からステップアップサポート事業に取り組み、3年目を迎え「協働学習」「ペア学習」等さまざまな授業の試みが続けられ「子どもたちがすすんで活

動するにはどんな課題がいいのだろうか？」「子どもたち同士がかかわり合うようにするには何が大切なんだろう？」「子どもたちと課題をつなぐには？」「英語でペアワークには取り組んでいるけれど、協働学習はどうやればできるのだろうか？」等、定例化した授業研究協議会や教科研究会の話し合いの中で出された課題を学校の枠を越えて共に考える機会を作りたいと思ったからでした。唐突に村上先生にお願いしたにもかかわらず、桐西の申し出を受けて下さり、おまけに職員向けの模擬授業をしてくださる特典つきの桐生西・安中総合合同授業研究協議会誕生の運びとなりました。



## 村上先生の教室の衝撃 1. 2. 3 ! 模擬授業 in 桐西 2015/10/14

テーマ：よりよい授業実践のために ペアワークの学び・協働の学び

### 「今日は生徒さんになって下さい」

軽やかな先生の挨拶で、私たち教師を相手に模擬授業が始まりました。

#### I【単語の読みの確認】

#### II【板書した本文の下線部分の意味を答える】

#### III【前時の復習】

- ・村上先生の先導で本文をみんなで発音します。
  - ・全員起立して各自で本文を音読し、音読し終えたら着席する。
  - ・英語を日本語に、日本語を見て英語本文を英語で発音できるように、各自で自習。以下、ペアワークは生徒の授業と同様に進む。
- @「今日は生徒さん」たち、授業が進むにつれて、ペアワークの取り組みがより熱気を帯びて、村上先生の賛辞「Very good! Good job!」とともに活発さもレベルアップ。

### 笑顔で楽しそうだったのは、

この模擬授業で、「今日は生徒さん」たちの笑顔で楽しそうに交流する様子が、とても印象的だったのは、村上先生の「コミュニケー

ション英語Ⅱ」の授業DVDの教室で

- 1 子どもたちが安心していられる教室
- 2 テンポの語りかけと心地よい英語の発音が響き合う教室
- 3 子どもたちと子どもたち、子どもたちと村上先生、子どもたちと教材・課題がつながっている教室

で実現していることの追体験をできたからだと思います。日頃教える側において自ら学ぶことの緊張と不安とよろこびを忘れがちな私たちが、生徒の地平に立って学ぶ貴重な機会となりました。

「ペアワーク」が目指すところ、「ペアワーク」で出来ることと、「協働学習」が目指す方向性と「協働学習」で出来ることについて検討することをおして、子どもたちが安心して教室に居場所を持ち、互いに交流を深めあいながら教材につながり、課題を探究していくために、「子どもたち同士が互いに認め合う関係を育てる」ことの重要性が改めて確認できたと思います。

# 生徒の様子に感動しつつ

安中総合学園高等学校・村上高根

## はじめに

今年から県内の高校では「群馬県高校生ステップアップサポート事業」と題し、授業に問題解決型の協働学習、いわゆるアクティブラーニングを取り入れることが求められるようになりました。

今年度、私は勤務する総合学科の高校でこの事業の係を務めている関係もあり、何もわからないながらも、自分の授業にこの協働学習を取り入れるべく、手探りで試行錯誤する毎日を送っております。

## やっていること

### ◇ペアワークで

毎時間の授業では単語テストと復習としての本文の意味確認をペアワークで行っています。

単語テストは、数年前に水上で行われた新英研の関東大会で事例発表された、福島県の中学校教諭、松本涼一先生に教わったやり方といただいたワークシートをアレンジしてやっていますが、生徒にはとても好評です。(普段なかなか新英研の活動には参加できないでおりますが、あの時誘っていただいたことを本当に感謝しております。)

本文の意味確認は、ペアになって交代で、①教科書の英文を日本語に訳す②板書ノートを見ながら今度は日本語を英語に直す、という活動です。どちらも制限時間が設けられているため、時間内にできるかできないか。ゲーム感覚で、生徒はキャッキヤ言いながらも楽しく(?)取り組んでいるようです。

### ◇グループで…英作文作りと発表

加えて各課のまとめとして、本文の内容についてグループで英作文を作り、全員の前で発表するという活動を行っています。



友だちと相談したり、あるいは、教科書やノート、単語帳とにらめっこしながら、言いたいことを英語で表現しようと一生懸命考える生徒の様子には本当に感動しますし、できないと思っていた生徒がこちらの予想を超えて意外な力を発揮することがあったり、と、新鮮

な驚きを感じることもしょっちゅうです。

## 日々苦行

数年前に「英語の授業は英語で行うこと」というお達しが文部科学省から出されたことは皆さんの記憶のどこかに覚えがおりかと思いません。

でも…考えてみてください。

英語の授業を英語で行って、なおかつ、毎時間毎時間、課題解決型のグループ学習を行う、って、そんなの無理じゃないですか???

英語という科目は昔から授業の手段や方法ばかりに焦点が当てられて議論されがちですが、卒業する時に生徒が身につけて欲しいのはどんな力か、その最終的なところを見失わないようにしたいと常々思っています。

数年前、卒業生が就職したあと、学校に顔を見せに来てくれた時に話していたことです。

「会社の同僚にベトナム人がいて、『一緒に掃除しよう』と言いたかったのに、『掃除する』という単語 (clean) すら出てこなかったんです。本当に悔しかったです。」

この言葉を時々思い出し、クラスの生徒の顔を思い浮かべては、彼らに英語の力をつけるにはどうしたらいいのか、そのために授業をどうするか、産みの苦しみに悩む苦行の日々を送っています。